

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
だれにも やさしく げんきよく しっかり学ぶ たけしの子	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子ども ・自分を高めていける子ども 	今年度も地域の方に大豆の栽培や加工、米作り、椎茸栽培、林業体験、収穫体験と交流を含めた体験学習を行うことができた。昔遊びの会や製作学習・和太鼓・放課後自習室等でボランティアの方々にもお世話になった。学校に来ていただくだけでなく、自治センターで地域の方々の前でのプレゼンや施設、保育園等へと学校外での積極的な交流もできた。放課後自習室が週2回になり、課題に向かう姿勢や自主学習の力がついてきた。メディアコントロールについては、保護者との連携を見直していきたい。元気アップタイムの内容を充実し、さらに体づくりを行っていきたい。

今年度の重点目標	成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価
重点1 ○にこにこ交流 ①つながりをつくる学級・安心できる人間関係づくり ②地域から学ぶ ③健康、安全安心のための家庭・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も松本大学の岸田幸弘先生より集団づくりゲームを通しての学級づくりについて継続指導をいただいていた。アンケートを定期的に行い、結果をもとに内容の検討を進めてきた。 ・保育園、老人ホーム、公民館、自治センターなど地域へ目を向け、地域の方々とのふれ合う機会が持てた。 ・健康、安全安心に関わって、学校医や保護者との連絡を密にとることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、定期的なアンケートのデータからどのような取り組みを行っていくことが改善に繋がるか、具体的なアドバイスをいただける機会をつくる。 ・今まで行ってきた活動（米作り、大豆の栽培と加工、昔遊び）の継続と共に、地域との関わりを積極的につけていきたい。 ・学校からの働きかけだけでなく、PTA活動として行うことで、取り組みがさらに充実するのではないかな。 	地域に積極的に出ていく活動ができていた。地域も子どもたちの学習を受け止め、協力していく繋がりがあった。学習としての取り組みなど、毎年子どもたちの実態や学習状況を検討して、内容や行う日程などを変えていっていることがわかった。
重点2 ○もくもく清掃 ①自発性を育てる自問清掃 ②道徳教育の充実 ③地域の教育力の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り清掃を行ったことにより、分担がはっきり6年生から伝えられるので、低学年もわかりやすく、静かに取り組んでいる。 ・無言清掃から自問清掃に高めるためには、道徳の授業と関連付けて行っていく必要がある。 ・地域の方々との活動(キャリア教育)の中でも意識付けできるのではないかな 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間通して、計画的に縦割り清掃を入れながら取り組んでいく。 ・そうじ（清掃用具の片付けを含め）だけでなく、職員が自問清掃、3つの玉の意味をしっかり理解し、日常生活の中でも3つの玉を意識して取り組むことで、自発性を育てることに繋げていきたい。 	6年生が親の職業を調べたり、親からどのような気持ちで仕事に取り組んでいるか話を聴いたりする機会があった。とても良かったので、今後も継続して行ってほしい。
重点3 ○ばんばん学習 ①基礎基本の定着 「4つの学び」の日常化 ②学習におけるユニバーサルデザイン化 ③武石っ子運動の充実 元気アップタイムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの授業を見合ったり、授業研究したりという機会が、今年度は少なかった。 ・視聴覚機器の日常的な活用等によりユニバーサルデザインを意識し行ってきた。 ・元気アップタイムは、学校保健委員会での発表を受け、内容を吟味し行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「4つの学び」は学習の中に必ず位置づくものであるため、授業の中で、意識させていく。授業研究の機会にも位置づけていきたい。見える支援ができていく。書画カメラ等どの教室にもあると見える支援が充実する。元気アップタイムの内容を体力テストから分析し、決め出していく。 	読む力が弱い傾向がある子どもの実態に合わせた学習の工夫（読書・音読）を大切にしていける。元気アップタイムは、5分でも継続していることで体力がアップしてくるので、引き続き行ってほしい。

教 育 指 導	評価項目	評価の観点	成果と課題	A B C D				改善策・向上策
				A	B	C	D	
	心身の健康と体力作り	<ul style="list-style-type: none"> ・元気アップタイム等の運動で体力アップが図れたか。 ・メディアコントロールへの取り組みを意識づけることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果から位置づけた縄跳びの活動には意欲を感じる。 ・得点で見える化したメディアコントロールカードが保護者と本人の意識を高めていた。 ・メディアコントロールの意識づけは十分できた。家庭主導の取り組みにするための手立てを考えたい。 		○			今後も体力テストでの数値から、取り組みを考えていく。 全県実施の食に関するアンケートの結果を踏まえて健康作りについてアプローチしていく。 PTAでメディアコントロールに取り組めるようにカードを職員のみでなく見合う機会をつくる。

活 動	導	「書く力」を伸ばす実践	・「つむぐ」を活用しての積み重ね等、書く力を伸ばすための指導を行ったか。	・「つむぐ」を書くことで、字を書くことへの抵抗は減っていた。自力で書けるようになってきた。 ・書き写す力と筆圧がしっかりしてきた。 ・お互いに良いところを見合うことで、ていねいに書く習慣が身に付いてきている。	○			「つむぐ」については、今年度のように確認する時間の確保を日課に位置づけ、継続指導していく。書く力を育てるために、すべての教科で書くことを意識して指導していく。(4つの学びにも関わって)
		「4つの学び」の日常化	・4つの学びを1時間の授業の中で意識して進めることができたか。	・聴くことに課題がある。聞いてはいるが、心を傾けて「聴く」姿勢は難しい。 ・自ら考え、意思を表していく力が必要だが、まだ十分とはいえない。	○			聴くことを大切にするための姿勢づくりや聴きたいと思う伝え合いを仕組んでいきたい。日々の授業の中で「4つの学び」を職員がより意識して指導していきたい。
		自主学習の指導・支援	・放課後自習室の活用や学習内容の提案と評価を行ったか。	・パソコンを活用してプリントでも学習を始めたことで、個に焦点を当てたシステム作りができた。 ・多くの子どもが参加できたが、参加する児童が固定化してきた。	○			保護者にも声をかけ、多くの児童が自習室を体験してもらい、個別指導に生かしていく。自主学習の内容の検討を学年会や学力向上委員会で行っていく。
	教育相談	個に応じた指導・支援	・児童、保護者の声を大切にした相談体制を行うことができたか。	・一人の子や家庭のことをチームとして見守る体制ができた。些細なことでも日々情報交換できた。職員の共通理解も図られている。 ・信、友組の保護者会を年4回行うことで、相談や支援会議をスムーズに進めることができた。	○			連学年会や低・高学年会などの学年会を来年度も活用し、今後も少しの変化を見逃さず、情報を共有していく。 教育相談コーディネーター、特別支援コーディネーターを中心に教育相談を行っていく。
学 校 運 営	地域との連携	情報の発信	・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	・定期的におたよりを発行できた。他の学年・学級からも学ぶことができた。 ・ホームページ、事務室前のモニターが定期的に更新され、モニターは子どもたちは喜んで見ている姿がある。	○			今後もお便り等により家庭へ、学習や学校生活の様子を知らせ、共に伸ばしたい点等を確認したい。事務室前モニターは今後も継続し、子どもたちの意欲や意識を高めるため活用していく。
		地域から学ぶ	・自然環境を生かした学び、地域の教育力を活用することができたか。	・校庭や武石川周辺の散策をすることで、自然を感じ、体を鍛えることができた。 ・夏は川遊び、冬は地元スキー場と地域の自然からたくさん学ぶことが学べている。	○			地域の方々から情報をいただき、武石ならではの学習に生かしていく。各学年における体験学習をキャリア教育との関連から位置づけ、整理していく。
		教育ボランティアの活用	・学校や学級の実態に合わせて有効に活用できたか。	・朝の読み聞かせ、生活科の学習に合わせた昔遊びの会でも多くの方にお世話になった。 ・日々の授業でも保護者を中心に支援してもらうことで、学習環境が整えられた。	○			学級、学校の願いを実現するためにボランティアの皆さんに協力していただく方向で進めていくために、コーディネーターや運営委員の皆さんより情報をいただく。
	安全な環境	学校環境 安全な 通学路	・安全な学校環境づくりを行っているか。 ・安全パトロールを行い児童の登下校の安全を見守られたか。	・月1回の安全点検やパトロールで学校環境や通学路の安全確認を行い、必要な場合は全職員で整備を行った。 ・安全パトロールにより、児童館やバスの運転手さんなど、地域の方と情報を共有できたこともよかった。	○			安全な学校環境であるために、月1回の安全点検を中心に、全職員で取り組んでいく。通学路の安全を図るために、グリーンベルトの塗り替えを安協の皆さんと協力して計画的に行っていく。

A …達成された

B …ある程度達成

C …達成にかける

D …達成されていない